

3) 家族関係：多くの主婦が将来子女と同居を望み、期待をしながらも収入源としての技術を養成という型で不安を補おうとしていることがうかがえる。

F-10 農村における生活構造に関する調査研究

岡山大教育 深田 貞子

1. 岡山県は臨海工業地帯の飛躍的な発展により農業県から工業県への変化の途上にあり、産業構造の複雑化、生産の拡大などとともに都市、農村を問わず県民生活は物質的には充実してきているが、生活におけるアンバランスはかえって増してきているのではなかろうか。そこで農村における生活構造がどのように変化し、また生活の運営がどのようになされているかを知らうとするものである。

2. 県北部農村 100 世帯について記入調査および話し合いを行ない、参考資料として、中・四国の他県農村 80 世帯についても同様の記入調査を依頼し、分析を試みた。

3. 一般的に生活における価値観が変化して来ており

1) 生活設計：経済的設計では家族構成、家族の年齢などによって異なるが、貯蓄の多くは学資、子女の結婚費、老後の小遣、新改築費とする世帯が殆んどである。精神的設計では現在および将来にかけて趣味をいかそうとするものが多く経済的安定とともに精神的安定を望んでいる。

2) 物質的生活：耐久消費財など生活の物質的な面は充実され、食住衣生活運営は時間的に短縮されている反面、各々の生活のアンバランスがみられる。